

## 副論文 1

特別養護老人ホームにおける作業療法士と介護職の  
「情報の共有化」に関する認識

Understanding information sharing among occupational therapists and  
care workers in special nursing homes for the elderly

宇佐美好洋<sup>1), 2)</sup>・小川恵子<sup>3)</sup>・西田裕介<sup>4)</sup>・小林隆司<sup>5)</sup>

- 1) 帝京平成大学 健康メディカル学部 作業療法学科
- 2) 首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域  
博士後期課程
- 3) 前所属；聖隷クリストファー大学大学院 リハビリテーション  
科学研究科
- 4) 国際医療福祉大学 成田保健医療学部 理学療法学科
- 5) 首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 作業療法科学域

2017年4月発行

作業療法 36巻2号 pp170-182

2016年1月15日受付，2016年10月6日受理

## 要旨

特別養護老人ホームで働いた経験のある作業療法士（以下，OT）10名と介護職（以下，CW）7名に半構造化インタビューを行った。そして，OTとCWの「情報の共有化」に関する認識を明らかにし，それぞれの認識を比較することで連携を促進する方法を検討した。結果，OTとCWの「共有したい情報」と，「情報の共有化の促進要因」が明らかになった。さらに，それぞれの「共有したい情報」と「情報の共有化の促進要因」の関係を検討することで，OTとCWそれぞれの「情報の共有化の促進要因の構造」が明らかになった。「情報の共有化」はOTとCWそれぞれの「情報の共有化の促進要因の構造」にそって行うことで，促進されることが示唆された。

Key Words：介護老人福祉施設，作業療法，連携

## はじめに

特別養護老人ホーム（以下、特養）におけるリハビリテーション（以下、リハビリ）職の支援効果は、利用者の生活行為の改善、表情や人間関係の改善、積極性の向上などが確認されている<sup>1)</sup>。リハビリの1つである作業療法の現状と課題をまとめた報告では、特養でのリハビリの在り方を踏まえた上で作業療法士（以下、OT）の必要性を示し、OTの役割を「利用者への直接的なサービス」と「介護職（以下、CW）との連携」をすることによって、特養入居者が「参加」や「活動」の状態を高められる生活習慣が作れるよう支援することであるとしている<sup>2)</sup>。しかしながら、実際に特養に勤務しているOTは、特養施設数7000強に対して、654名ときわめて少なく<sup>3)</sup>、OTの役割は他職種に認識されていない状態であり、今後はOTの役割を他職種に啓発し、他職種と連携するためのよりよい方法などを検証する研究が必要であると報告されている<sup>2)</sup>。

大塚ら<sup>4)</sup>は専門職連携の構成要素として「情報の共有化」、「チームケアの促進」、「サービス提供の円滑化」の3つを抽出しており、中でも「情報の共有化」が最も中心となる要素であるとしている。特養におけるリハビリ職の介入研究では、リハビリ職と特養スタッフの情報共有の有用性、必要性は示されているが、現状では特養スタッフと他職種との情報共有が十分になされていない状況であることが報告されている<sup>1)</sup>。療法士の配置が必須となっている介護老人保健施設での調査でも、リハビリ職は、「入所者の生活に対する意向や目標について」「家族の意向や在宅生活の介護力について」、「専門職としての知識や技術について」の項目でCWと情報共有できておらず、CWは「入所者の疾患や心身の状態について」、「入所者の日常生活状況と援助内容について」の項目でリハビリ職と情報共有できていないという認識であることが具体的に報告されている<sup>5)</sup>。このように「情報の共有化」の必要性や認識を示した研究は散見されるが、特養でOTとCWの認識を調査した研究はなく、課題

として提言されているに留まっている。したがって、特養で OT がその能力を発揮し、特養入居者が「参加」や「活動」の状態を高められる生活習慣が作れるよう支援するためには、OT と CW の「情報の共有化」に関する認識を明らかにする必要がある。

以上のことから、本研究では「情報の共有化」を、2 人以上の異なった専門職が、特養入居者の「参加」や「活動」の状態を高められる生活習慣を作ることを目的に連携・協働する際、必要となる情報を共有することと定義し、特養に勤務している OT と CW の職務経験をもとに、OT と CW それぞれの「情報の共有化」に関する認識を明らかにすることにした。そして、それぞれの認識を比較することで OT と CW の連携を促進する方法を検討する。

## 方法

### 1. 研究デザイン

本研究では、OT と CW の職務経験から、「情報の共有化」に関する認識を記述することで、その現象を理解することを目的としている。そのため、研究対象となっている現象を記述することによって、その現象を理解することが第一の目的である質的記述的研究を採用することが妥当であると判断した。

### 2. 対象者

特養で CW と一緒に働いた経験のある OT と、特養で OT と一緒に働いた経験のある CW を対象とした。対象の OT は、平成 21 年度日本作業療法士協会会員名簿に登録されている静岡県内の特養に勤める OT 全員と、研究者の知り合い、対象者の知り合いで上述した対象者の選定条件を満たす者 16 名に依頼し、同意の得られた 10 名とした。対象の CW は、同意の得られた OT に紹介して頂いた者 7 名に依頼し、同意の得られた 7 名とした。

### 3. 倫理的配慮

聖隷クリストファー大学倫理委員会で審査を受け、研究対象者の人権、尊厳、プライバシーに十分に配慮していることを認められた上で研究を進めた（受付番号 10-076，承認番号 10059）。

### 4. データの収集方法

データは、半構造化インタビューにて収集した。インタビューは、事前に pilot study を行って作成したインタビューガイド<sup>6)</sup>に基づき行った（表 1）。インタビューの実施場所は対象者の希望する静かで話しやすい場所とした。記録は対象者の同意を得て、筆記と録音を併用して行った。録音の同意が得られなかった対象者については、筆記のみ行った。インタビュアーは、高齢期領域で OT として数年働いたことのある大学院生 1 名とした。なお、インタビューは、平成 23 年 5 月～7 月に実施した。

### 5. データの分析方法

分析は、OT から得られたデータと CW から得られたデータを分けて実施した。分析手順としては、インタビュー終了後、録音内容を書き起こし逐語録を作成した。そして、逐語録から「共有したい情報」と「『情報の共有化』の促進要因」に関連した内容を抜粋した。その中から同様の内容や意味を示すデータを類別し、コード化した。そして、意味の内容が類似しているコードを集約し、サブカテゴリー化した。さらに、サブカテゴリーの共通性や類似性を検討しながらカテゴリーにまとめた。まとめた「共有したい情報」と「『情報の共有化』の促進要因」のカテゴリー間の関係や相互の影響を検討し、「『情報の共有化』の促進要因の構造」を図式化した。

分析結果の厳密性の検討は、Lincoln らの研究の信頼性の評価基準<sup>7)</sup>を参考に pilot study<sup>6)</sup>、メンバーチェック、専門家、研究者による検討により行った。専門家、研究者による検討では、分析過程において質的研究を行った経験のある博士 1 名、修士 4 名（内 2 名

は博士課程在籍中)でデータの分析や結果に関して検討した。メンバーチェックングでは、最終段階の研究結果について、図式化したものと、データの分析結果の内容を対象者に送付した。そして、分析結果の解釈に間違いがないかを E-mail と電話にて確認した。OT の分析結果は、10 名の対象者の内、9 名の対象者から返答があった。返答があった 9 名は、全員が納得できるという返答であった。CW の分析結果は、7 名の対象者全員が納得できるという返答であった。

## 結果

### 1. 対象者の属性と、インタビュー時間、録音の有無

インタビューは、2 名続けて新しいカテゴリーが出てこなくなったため、これ以上新しいカテゴリーがでてこないと判断し、OT10 名、CW7 名で終了した。対象者の性別は、OT が男性 3 名、女性 7 名、CW が男性 4 名、女性 3 名であった。所属施設は、OT が 6 施設であり、CW は 4 施設であった。同一の法人グループに所属していた対象者は、OT が 5 名、CW は 6 名であった。臨床経験は OT 平均 9.8 (2~26) 年、CW 平均 7.4 (3~11) 年、特養の職務経験は OT が平均 2.6 (1~5) 年、CW は平均 4.7 (2~10) 年であった。1 人あたりのインタビューの所要時間は OT が平均 38.7 (26~48) 分、CW は平均 34.1 (25~41) 分であった。録音は、同意の得られた OT8 名、CW7 名に行った。録音の同意が得られなかった OT2 名の記録は、筆記のみ行った。

### 2. データの分析結果

OT からは、102 コード、26 サブカテゴリー、8 カテゴリーが抽出された(表 2, 3)。CW からは、98 コード、30 サブカテゴリー、8 カテゴリーが抽出された(表 4, 5)。なお、結果の記述に関してはカテゴリーを【 】、サブカテゴリーを《 》で表した。

#### 1) OT の CW と共有したい情報(表 2)

OTは、《人生（生活）の再構築のための支援方法》、《OTの視点》、《身体介助のアドバイス》、《OTがみられないところをCWが見られるということ》という入居者の支援のために必要な情報を、【CWに伝えたい情報】と考えていた。そして、《入居者の状態》、《情報をどのように伝えたらよいか—伝えるために必要な情報—》、《以前伝えた情報のフィードバック》という、入居者の支援のために必要な情報と、情報を共有するために必要な情報を、【CWから教えて欲しい情報】と考えていた。この【CWに伝えたい情報】と【CWから教えて欲しい情報】という2つの「OTのCWと共有したい情報」は、「OTの考えているCWとの『情報の共有化』の促進要因」の全てのカテゴリーと影響関係にあった。

## 2) OTの考えているCWとの「情報の共有化」の促進要因（表3）

「OTの考えているCWとの『情報の共有化』の促進要因」では、OTに、《入居者の生活を豊かにしたい》、《CWにレベルアップ》、《リスク管理》のために情報を共有したいという【情報を共有する動機がある】ことが語られた。この動機が、情報を共有する原動力（モチベーション）となっていた。そして、【情報を共有するために普段から心がけていること】として、《1つ1つの事例を大切にする》、《常に情報を共有するよう意識する》、《短い時間で的確に情報を共有できるようにする》、《CWとの関係作りをする》、《考えるプロセスを共有する》、《情報を伝えた後のフォローアップをする》、《長い目でみて、いい結果を繰り返し伝える》ということが語られた。また、情報を共有するためには、《情報をわかりやすく伝える》、《興味を持ってもらえるように伝える》、《介護業務の中でできるようにする》という【情報を共有するための戦略をたてる】ことが必要であると語られた。OTは、この【情報を共有するために普段から心がけていること】と【情報を共有するための戦略をたてる】ことの2つを意識して、ユニットリーダーや主任などの《キーポイントとなる人と情報を共有する》、連絡ノート、電子カルテ、カンファレンスなどの《情報を共有するためのシステムを利用する》、OTが伝えた情

報を《CW 同士で情報を共有してもらおう》という 3 つの【情報を共有するための戦略的な働きかけをする】ことで情報を共有できると考えていた。情報の共有後，《何度も繰り返していくうちに CW の信頼を得た》，《伝えたことが日常生活で反映された》という【「情報の共有化」の取り組みの成果がある】ことが OT の報酬となり，【情報を共有する動機がある】に影響を与えているというパターンとなっていた。そして，《CW が熱心で協力的》であるという【外からの働きかけ】によって，そのパターンが促進されると考えていた。

### 3) OT の考えている CW との「情報の共有化」の促進要因の構造 (図 1)

「OT の CW と共有したい情報」と「OT の考えている CW との『情報の共有化』の促進要因」の結果より，OT の考えている CW との「情報の共有化」の促進要因の構造は，「OT の CW と共有したい情報」が中心になっていると見いだせた。そして，【情報を共有する動機がある】ことが原動力となり，【情報を共有するために普段から心がけていること】と【情報を共有するための戦略をたてる】ことの 2 つを意識して，【情報を共有するための働きかけをする】。その【「情報の共有化」の取り組みの成果がある】ことが OT の報酬となり，【情報を共有する動機がある】に影響を与えているというパターンになっていると見いだせた。さらに，【外からの働きかけ】によってそのパターンが促進されるという構造となっていることを見いだせた。

### 4) CW の OT と共有したい情報 (表 4)

CW は，《支援に対する CW の考え》，《支援方法を教えて欲しいということ》，《CW の目線で見たい入居者の状態》という入居者の支援のために必要な情報を，【OT に伝えたい情報】と考えていた。そして，《入居者の状態・能力》，《支援方法》，《OT について》，《リハビリプラン》，《OT が伝えて欲しいと思う情報》，《OT の視点からみた入居者の診方・考え方》という入居者の支援のために必要な情報と，OT という専門職の情報を，【OT から教えて欲しい情報】と考えてい



た．この【OTに伝えたい情報】と【OTから教えて欲しい情報】という2つの「CWのOTと共有したい情報」は、「CWの考えているOTとの『情報の共有化』の促進要因」の全てのカテゴリと影響関係にあった．

#### 5) CWの考えているOTとの「情報の共有化」の促進要因（表5）

「CWの考えているOTとの『情報の共有化』の促進要因」では、《専門職からのお墨付きが欲しい》、《入居者のことが知りたい》という【情報を共有する動機がある】ことが語られた．この動機が、情報を共有する原動力（モチベーション）となっていた．そして、《情報を共有するための働きかけをする》、《OTとの関係を作る》、《CW自身の能力を高める》、《自分の職種の役割を認識する》、《餅は餅屋》、《CW全員で情報を共有する（意識）》という【情報を共有するために普段から心がけていること】を基盤（ベース）に、《OTをつかまえる》という感覚で、【OTと情報を共有する】という考えが語られた．さらに、《申し送りをする》、《情報を共有する媒体に記録をする》、《場を設ける》、《キーポイントとなる人を通して情報を共有する》、《口頭で情報を共有する》、《情報を確認したらサインをする》、《何回も繰り返し伝える》という方法で【OTがくれた情報をCW同士で共有する】ことで、情報をCW全体で共有できると考えていた．情報の共有後、《OTにアドバイスをもらえると私たちもできるんだと安心する》という【「情報の共有化」の取り組みの成果がある】ことがCWの報酬となり、【情報を共有する動機がある】に影響を与えているというパターンとなっていた．そして、このパターンの背景には、OTに《報告・連絡・相談の工夫をして欲しい》、《教え方を工夫して欲しい》、《OTの人間性を求める》、《CWの相談役でいること》という【OTにして欲しい・求めること】が大きく全体に影響を与えていると考えていた．

#### 6) CWの考えているOTとの「情報の共有化」の促進要因の構造（図2）

「CWのOTと共有したい情報」と「CWの考えているOTとの『情

報の共有化』の促進要因」の結果より、CWの考えているOTとの「情報の共有化」の促進要因の構造は、「CWのOTと共有したい情報」が中心となっていると見いだせた。そして、【情報を共有する動機がある】ことが原動力となっており、【情報を共有するために普段から心がけていること】を基盤（ベース）に、【OTと情報を共有する】。さらに、【OTがくれた情報をCW同士で共有する】。その【「情報の共有化」の取り組みの成果がある】ことが、CWの報酬となり、【情報を共有する動機がある】に影響を与えているというパターンになっていると見いだせた。このパターンの背景には、【OTにして欲しい・求めること】があり、大きく全体に影響を与えているという構造となっていることを見いだせた。

## 考察

### 1. 共有したい情報

OTのCWと共有したい情報からは、①OTが、OTの視点や支援方法をCWに伝えたいと考えていること、②OTは、24時間入居者の介護を担当しているCWに《入居者の状態》を教えて欲しいと考えていること、③OTは、「情報の共有化」を確実にを行うために、《情報をどのように伝えたらよいか—伝えるために必要な情報—》、《以前伝えた情報のフィードバック》の情報をCWから教えて欲しいと考えていることが示唆された。このことから、OTは、CWから入居者の状態を教えてもらい、OTの視点からみた支援方法をCWに伝えたいと考えていることが推察される。さらに、その情報を確実に伝えるために、どのように伝えたらよいかを話し合い、伝えた情報をフォローアップしていく必要があると考えていることが示唆される。

一方、CWのOTと共有したい情報からは、①CWが、入居者の状態と自分たちの考えをOTに伝え、OTに支援方法を教えてもらいたいと考えていること、②CWだけでは、機能訓練を取り入れていく

ことが難しいため、OTに《入居者の状態・能力》、《支援方法》、《リハビリプラン》、《OTの視点からみた利用者の診方・考え方》を教えて欲しいと考えていること、③CWは、OTの役割がどのようなことかわからないため、《OTについて》、《OTが伝えて欲しいと思う情報》をOTから教えて欲しいと考えていることが示唆された。このことから、CWは、OTに入居者の状態と自分たちの考えを伝え（相談し）、OTの視点からみた入居者の状態、支援方法を教えてもらおうと考えているということが推察される。また、CWは、OTの役割がどのようなことかわからないため、OTのことを教えて欲しいと考えていることが示唆される。

## 2. 「情報の共有化」の促進要因

OTの考えているCWとの「情報の共有化」の促進要因からは、「情報の共有化」を促進するために、①OTが《入居者の生活を豊かにしたい》、《CWのレベルアップ》、《リスク管理》という3つの動機を持つこと、②《1つ1つの事例を大切にする》、《常に情報を共有するよう意識する》、《短い時間での確に情報を共有できるようにする》、《CWとの関係作りをする》、《考えるプロセスを共有する》、《情報を伝えた後のフォローアップをする》を心がけること、特に、《CWとの関係作りをする》を心がけること、③OTが「情報を伝える」ことに重きを置いて、《情報をわかりやすく伝える》、《興味を持ってもらえるように伝える》、《介護業務の中でできるようにする》という戦略をたてること、④OTが《キーポイントとなる人と情報を共有する》、《情報を共有するためのシステムを利用する》、《CW同士で情報を共有してもらおう》という3つの戦略的な働きかけをすること、⑤OTに《何度も繰り返していくうちにCWの信頼を得た》、《伝えたことが日常生活で反映された》という成果があること、⑥《CWが熱心で協力的》であることの必要性が示唆された。さらに、OTは、共有したい情報、動機、心がけ、戦略、戦略的な働きかけ、成果、外からの働きかけが「OTの考えているCWとの『情報の共有

化』の促進要因の構造」で示したパターンで行われることで、OTとCWの「情報の共有化」が促進されると考えていることが示唆された。

一方、CWの考えているOTとの「情報の共有化」の促進要因からは、「情報の共有化」を促進するために、①CWが《専門職からのお墨付きが欲しい》、《入居者のことが知りたい》という2つの動機を持つこと、②《情報を共有するための働きかけをする》、《OTとの関係を作る》、《CW自身の能力を高める》、《自分の職種の役割を認識する》、《餅は餅屋》、《CW全員で情報を共有する（意識）》を心がけること、特に、《OTとの関係を作る》を心がけること、③CWが、《OTをつかまえる》こと、④CW同士が《申し送りをする》、《情報を共有する媒体に記録をする》、《場を設ける》、《キーポイントとなる人を通して情報を共有する》、《口頭で情報を共有する》、《情報を確認したらサインをする》、《何回も繰り返し伝える》という7つの方法でOTがくれた情報を共有すること、⑤CWに《OTにアドバイスをもらえると私たちもできるんだと安心する》という成果があること、⑥CWが、OTに《報告・連絡・相談の工夫をして欲しい》、《教え方を工夫して欲しい》、《OTの人間性を求める》、《CWの相談役でいること》を求め、OTがそれに応えることの必要性が示唆された。さらに、CWは、共有したい情報、動機、心掛け、OTと共有する、CW同士で共有する、成果、OTに求めることが「CWの考えているOTとの『情報の共有化』の促進要因の構造」で示したパターンで行われることで、CWとOTの「情報の共有化」が促進されると考えていることが示唆された。

以上のことから、OTとCWが本研究で明らかになったお互いの「情報の共有化」に関する認識を知り、それぞれの促進要因の構造で示したパターンにそって「情報の共有化」を行うことで、「情報の共有化」が円滑に行われ、連携が促進される可能性が考えられる。

## 本研究の限界

本研究で抽出された OT と CW の「情報の共有化」に関する認識は、対象地域が限定されており、地域の資源に偏りがある。また、性別、経験年数、勤務形態などの各属性による認識の違いが明らかになっていない。さらに、対象者の選定条件も特養の勤務経験のみとしており、「情報の共有化」を促進するノウハウを持っている者に限定していない。したがって、本研究の結果を他の特養に勤める OT と CW にそのまま適用するには限界があると考えられる。

**謝辞：**本研究にご協力頂きました皆様に深謝致します。なお、本研究の一部は、第 46, 47, 48 回日本作業療法学会、第 16 回世界作業療法士連盟大会において発表した。

表1 インタビューガイド

---

現在の職場で働きはじめてからの勤務年数と OT/CW としての経験年数を教えてください

現在の仕事の内容について教えてください

現在、入居者の活動や参加の状態を高めるために CW/OT とどのように情報を共有されていますか

情報を共有できたと感じた時の経験を教えてください

情報を共有できなかったと感じた時の経験を教えてください

情報を共有できなかった時、それに対してどのように対処されていますか

入居者の活動や参加の状態を高めるために CW/OT へ伝えたいと思ったことは何ですか

入居者の活動や参加の状態を高めるために CW/OT から教えてほしいと思ったことはなんですか

どのように情報を共有すれば、入居者の活動や参加の状態を高めることができると思いますか

---

表2 「OTのCWと共有したい情報」に含まれていたカテゴリー・サブカテゴリー・コード

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
CWに伝えたい情報	人生（生活）の再構築のための支援方法	どうすれば入居者の生活を豊かにできるか 知識技術の使い方が入居者の生活を豊かにすることにつながっているか考えること
	OTの視点	作業療法の効果 作業療法評価の結果 作業の提案 リハビリに対する考え方 CWにやってもらいたいこと
	身体介助のアドバイス	身体診かた—評価の目— 身体の使い方 環境への配慮の仕方 福祉用具の使い方 入居者の能力を活かした身体介助の実践方法 丁寧にやること ちょっとしたことで変わるということ 腰痛予防になること 安全にできるように
	OTが見られないところをCWが見られると いうこと	OTが見れないところをCWが見れるということ
	CWから教えて欲しい 情報	入居者の状態 CWが日々の介護の中で感じること 入居者の文脈に関すること 入居者の想い 入居者の生活場面での様子 —実際どのようにやっているのか— OTがみていない時間帯の入居者の様子 家族関係
情報をどのように伝えたらよいか —伝えるために必要な情報—	情報をどのように伝えていけばよいか CWの目に付く場所 勤務体制 CWの都合のよい時間 介護業務の中でできること CWの介護に対する想い・考え	
以前伝えた情報のフィードバック	以前伝えた情報のフィードバック	

表3 「OTの考えているCWとの『情報の共有化』の促進要因」に含まれていたカテゴリー・サブカテゴリー・コード

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
情報を共有する動機がある	入居者の生活を豊かにしたい	入居者の生活を豊かにしたい
	CWのレベルアップ	CWの何かが変わればいい OTの作業に関する知識を活用して欲しい
情報を共有するために普段から心がけていること	リスク管理	リスク管理
	1つ1つの事例を大切にすること	1つ1つの事例を大切にすること
情報を共有するために普段から心がけていること	常に情報を共有するよう意識すること	常に情報を共有する意識をもつ お互いに確認し合う 常日頃から話をする CWと同じ空間でリハビリを行う OTから情報を聞いていく OTから情報を発信していく まず自分がやる OTが相談窓口になる 職員がみる連絡媒体には必ず情報をのせる 書類を見たらサインをしてもらう
	短い時間で的確に情報を共有できるようにする	現場で情報を共有する 面と向かって意見交換する 聞かれたらすぐ答えられるようにする すぐに確認できる状態にする
情報を共有するために普段から心がけていること	CWとの関係作りをする	上から目線にならないように気をつける 自分主体でなく、CWを援助することを意識する 忙しい雰囲気を出さないようにする CWとの関係作りをする 介護業務を把握する CWの能力に合わせて対応する CWの都合の良い時間に合わせる 情報はCWの気が付きやすいところに掲示する CWがリハスタッフに求めていることを汲んで関わる 「OTとは何か？」を知ってもらう OTが役に立つことを知ってもらう
	考えるプロセスを共有する	考えるプロセスを知らないと伝わらない とにかく一緒にいる 実際にやっているところを見せてもらう CWがやるところを見せてもらう CWと一緒に考えながらやる 一緒にやると考えを共有できる
情報を共有するために普段から心がけていること	情報を伝えた後のフォローアップをする	情報を伝えた後のフォローアップをする
	長い目で見て、よい結果を繰り返し伝える	繰り返す 長い目でみる いい結果を積み重ねる
情報を共有するための戦略をたてる	情報をわかりやすく伝える	情報をわかりやすく伝える わかりやすい資料を作る わかりやすい言葉を使う 絵や写真を使って説明する 入居者に触ってもらいながら説明する
	興味を持ってもらえるように伝える	入居者とCWがお互いにメリットがあることを助言する ケアの大変さだけを残さない



		<p>CW をほめる</p> <p>何でやるのかを理解してもらえるように伝える</p> <p>その人のためであることを理解してもらえるように伝える</p> <p>CW が困っている時に楽にできる方法を伝える</p> <p>結果を出し、効果をアピールする</p>
	介護業務の中でできるようにする	<p>CW が業務の中で簡単にできるようにセッティングする</p> <p>日々の介護の中で行えるリハビリを提案する</p>
情報を共有するための戦略的な働きかけをする	キーポイントとなる人と情報を共有する	<p>キーポイントになる人と一緒にやる</p> <p>キーポイントとなる人に伝え、広めてもらう</p>
	情報を共有するためのシステムを利用する	<p>情報を共有する書式を使う</p> <p>情報を共有するボックスを作る</p> <p>電子カルテで情報を共有する</p> <p>連絡ノートを使う</p> <p>記録と口頭の両方で伝える</p> <p>カンファレンスで情報を共有する</p> <p>勉強会をする</p> <p>毎日の申し送りの時間に情報を共有する</p>
	CW 同士で情報を共有してもらう	<p>実際にCW だけでやってみてもらう</p> <p>ユニット内の意思を統一してもらう</p>
「情報の共有化」の取り組みの成果がある	何度も繰り返していくうちにCW の信頼を得た	<p>何度も何度もやっていくうちに普及した</p> <p>CW がOTを探してくれるようになった</p> <p>一緒にみたいと言ってくれるCWが増えた</p>
	伝えたことが日常生活で反映された	伝えたことが日常生活で反映された
外からの働きかけ	CW が熱心で協力的	CW が熱心で協力的

表4 「CWのOTと共有したい情報」に含まれていたカテゴリー・サブカテゴリー・コード

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
OTに伝えたい情報	支援に対するCWの考え	CWがどこまでできるか伝えたい
		CWの目標を伝えたい
		介護業務の中でできると思うリハビリメニューを伝えたい
	支援方法を教えて欲しいということ	入居者の能力を維持するための支援方法を教えて欲しいと伝えたい
	CWの目線で見た入居者の状態	CWの目線で見た利用者の能力を伝えたい 入居者の変化（経過報告）を伝えたい 入居者の状態（生活の様子など）を伝えたい
OTから教えて欲しい情報	入居者の状態・能力	入居者の能力を教えて欲しい
		入居者の状態を見てもらう
	支援方法	支援方法をみてもらう（確認・提案）
		支援方法をアドバイスしてもらう
		入居者の想いを汲んだ支援方法を教えて欲しい
		何をしてもよいかわからない時の支援方法を教えて欲しい
		時期別の支援方法を教えて欲しい
		時間のかからない支援方法を教えて欲しい
		自分たちに負担のかからない支援方法を教えて欲しい
		日々の生活の中でCWにもできるリハビリメニューを教えて欲しい
		身体機能が低下した時の対処方法を教えて欲しい
		福祉用具について教えて欲しい
		移乗介助の方法を教えて欲しい
		ポジショニングの方法を教えて欲しい
		環境調整の方法を教えて欲しい
		歩行について聞く
	入浴方法について聞く	
	食事について聞く	
	立ち上がり介助について聞く	
	OTについて	OTにどこまでお願いしてよいのか教えて欲しい
OTは何ができるのか教えて欲しい		
OTのことをもっと知る必要がある OTの視点を知りたい		
リハビリプラン	リハビリプランに対しての意見が欲しい	
	今後の目標を教えて欲しい	
OTが伝えて欲しいと思う情報	何を伝えて欲しいか知りたい	
OTの視点からみた入居者の診方・考え方	OTの視点でみたちょっとした気づきを教えて欲しい	
	なぜこうするのか教えて欲しい	
	身体の仕組みから教えて欲しい	
	ちょっとしたことで変わるということを教えて欲しい	
	身体的なところを教えて欲しい 姿勢について教えて欲しい	

表5 「CWの考えているOTとの『情報の共有化』の促進要因」に含まれていたカテゴリー・サブカテゴリー・コード

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
情報を共有する動機がある	専門職からのお墨付きが欲しい	専門職からのお墨付きが欲しい
	入居者のことが知りたい	利用者のことが知りたい
情報を共有するために普段から心がけていること	情報を共有するための働きかけをする	自分たちから働きかける 常にOTと情報を共有する意識を持つ 聞きたいことを自分で考えてから聞く
	OTとの関係を作る	OTと協業することを意識する 話しやすい関係作りをする
	CW自身の能力を高める	なぜこうするといのかに興味を持つ 情報量を少なくするように工夫する 専門用語を勉強する CWがスキルアップしていかないといけない
	自分の職種の役割を認識する	OTと利用者の仲介役であるよう意識する 危機感を持つ
	餅は餅屋	専門職から教えてもらった方がはやく
	CW全員で情報を共有する（意識）	CWが情報を共有できるようにする
	OTと情報を共有する	OTをつかまえる OTが回ってきた時つかまえる 連絡して呼ぶ（内線・PHSなどで）
OTがくれた情報をCW同士で共有する	申し送りをする	申し送りで伝える
	情報を共有する媒体に記録をする	情報を共有する書式を作る 記録することで情報を共有する ケアプランにリハビリプランをのせる 掲示版を活用する
	場を設ける	カンファレンスで情報を共有する OTと話ができる場を設ける 多職種で話し合う場を設ける リハビリ場面をみる
	キーポイントとなる人を通して情報を共有する	ケアマネージャーにも入ってもらう リーダーを通して情報を共有する CWで意見をまとめてOTに伝える
	口頭で情報を共有する	口頭で情報を共有する
	情報を確認したらサインをする	情報を確認したらサインをする
	何回も繰り返し伝える	何回も繰り返し伝える
「情報の共有化」の取り組みの成果がある	OTにアドバイスがもらえると私たちもできるんだと安心する	OTにアドバイスがもらえると私たちもできるんだと安心する
OTにして欲しい・求めること	報告・連絡・相談の工夫をして欲しい	報告・連絡・相談して欲しい すぐに対応して欲しい すぐに連絡できるようにして欲しい すぐに対応できない時はメモ書きを残して欲しい 熱心なCWに声をかけて欲しい CW全員に情報が伝わるようにして欲しい 時間を調節してもらおう カンファレンスする前に情報を聞いて欲しい
	教え方を工夫して欲しい	1人1人教えて欲しい 専門用語を使わない 図や写真を使う

	<p>その人その人で教え方を変える</p> <p>リハビリの支援方法を具体的なところまで教えて欲しい</p> <p>的確にしっかり教えて欲しい</p> <p>専門的な知識を踏まえて助言して欲しい</p> <p>入居者の状態を体験する</p> <p>見本をみせて欲しい</p> <p>サンプルをみせて紹介して欲しい</p> <p>効果を示して欲しい</p> <p>勉強会をして欲しい</p> <p>実際にきて一緒に見てもらう</p> <p>入居者、職員のためになることで時間のかからない支援方法を教えて欲しい</p> <p>ユニットでリハビリしてもらう</p>
OTの人間性を求める	<p>OTの人間性を求める</p> <p>OTが話しやすい人だとよい</p>
CWの相談役であること	<p>OTはCWの相談役である</p>

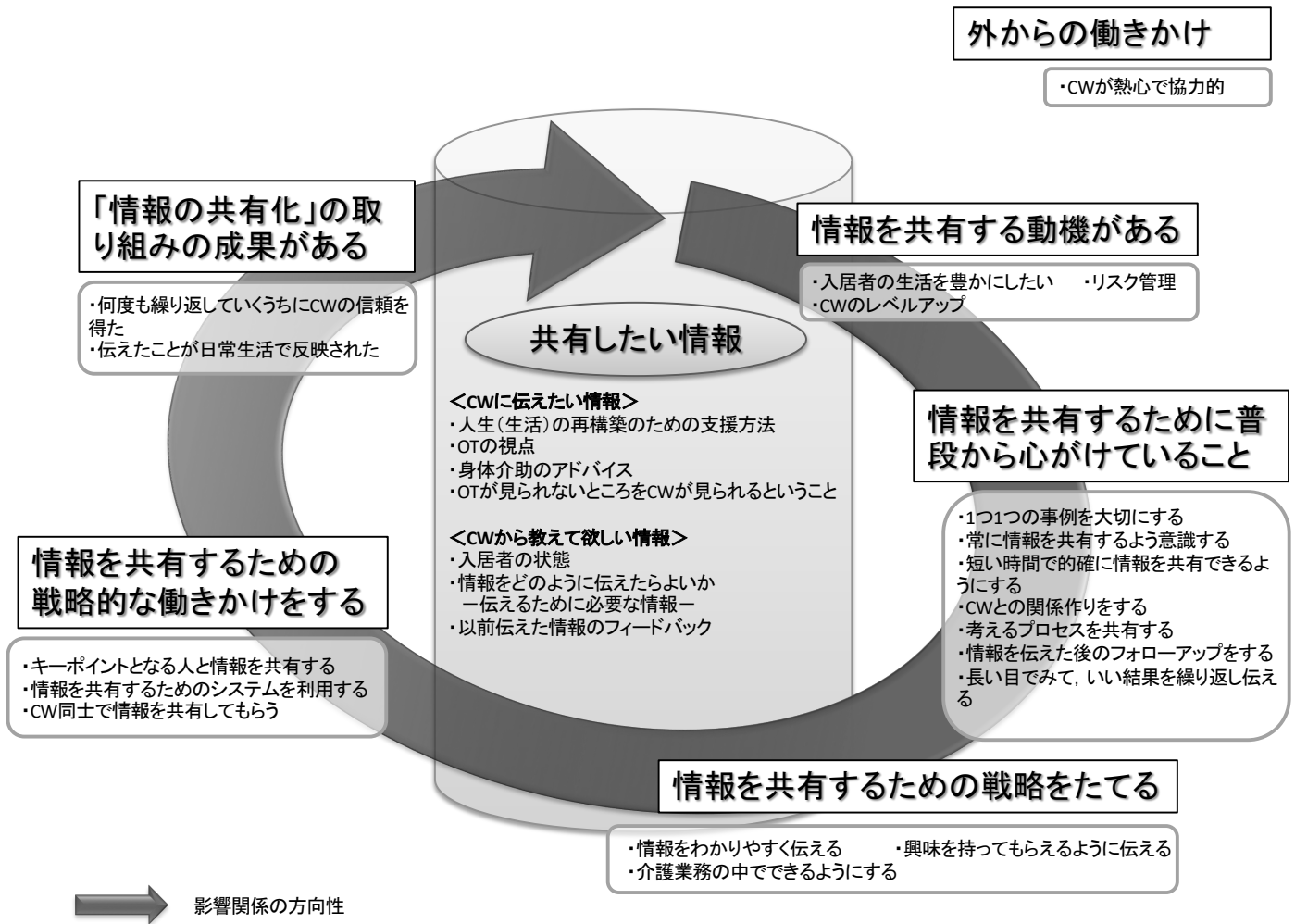


図1 OTの考えているCWとの「情報の共有化」の促進要因の構造

「OTのCWと共有したい情報」と「OTが考えているCWとの『情報の共有化』の促進要因」に含まれていたカテゴリー・サブカテゴリー間の関係を示している。

罫線囲み文字と< >内の文字：カテゴリーを示す。

・付き文字：サブカテゴリーを示す。

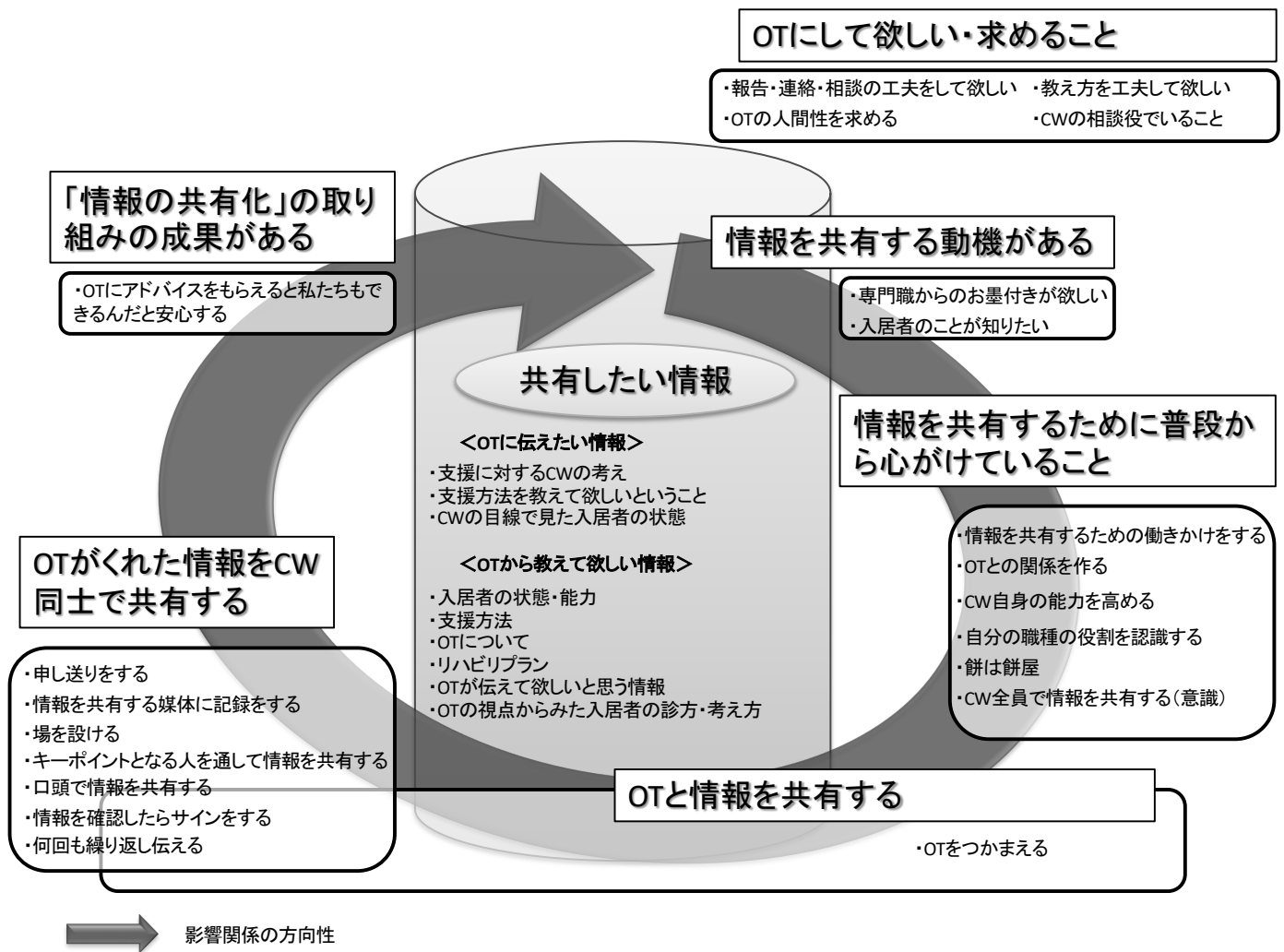


図2 CWの考えているOTとの「情報の共有化」の促進要因の構造

「CWのOTと共有したい情報」と「CWが考えているOTとの『情報の共有化』の促進要因」に含まれていたカテゴリー・サブカテゴリー間の関係を示している。

罫線囲み文字と< >内の文字：カテゴリーを示す。

・付き文字：サブカテゴリーを示す。

## 文献

- 1) 全国国民健康保険診療施設協議会：特別養護老人ホームへのリハビリ支援にかかる調査研究事業報告書．（オンライン），入手先〈 [http://www . kokushinkyoo . or . jp/tabid/169/Default . aspx?ItemId=96](http://www.kokushinkyoo.or.jp/tabid/169/Default.aspx?ItemId=96)〉，（参照 2011-1-10）．
- 2) 宇佐美好洋，小川恵子，西田裕介：我が国の特別養護老人ホームにおける作業療法の現状と課題．リハビリテーション科学ジャーナル 6：47-56，2010．
- 3) 日本作業療法士協会：2015 年度日本作業療法士協会会員統計資料．日本作業療法士協会誌 54：5-22，2016．
- 4) 大塚真理子，平田美和，新井利民，大嶋伸雄，井口佳晴，他：在宅高齢者への援助活動におけるインタープロフェッショナルワークの構成要素．埼玉県立大学紀要 6：9-18，2004．
- 5) 山本道代，奥宮暁子，山本武志：介護老人保健施設における看護職・介護職・リハビリテーション関連職の他職種に対する情報授受の認識．老年看護学 19（2）：58-65，2015．
- 6) 宇佐美好洋，小川恵子，西田裕介：特別養護老人ホームでの「情報の共有化」に関する質的研究の予備的調査—インタビューガイドの厳密性の検討—．帝京平成大学紀要 25：21-28，2014．
- 7) Lincoln YS. Guba EG：Naturalistic inquiry. Sage Publications, Beverly Hills, 1985, pp. 289-331.

## **Abstract**

A semi-structured interview was conducted with 10 OTs and 7 CWs working in special elderly nursing homes in order to clarify their understanding of information sharing. The results of the interviews of the OTs and CWs were compared to identify the means of promoting collaboration between the two groups. The analysis shed light on the information that OTs and CWs wanted to share and the factors that promote information sharing. The relationship between the information that OTs and CWs wanted to share on the one hand and the factors that promote information sharing on the other was examined. Furthermore, the factors that promote information sharing between OTs and CWs was clarified. Information sharing should be practiced between OTs and CWs while also considering the factors that promote it.

**Key words:** Special elderly nursing home, Occupational therapy, Collaboration